

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

本部セクター (センター)

私たちの政治的立場

まるで物語のような女性の現実に合わせて

初版：2004年4月21日

最終更新：2019年9月30日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

私たちの政治的立場

女現研の代表女性スタッフは、多くのフェミニズム団体に見られる政治思想とは大きく異なり、概ね以下のような政治的立場をとっております。これには、女現研の創設母体となった現最高代表・連携女子シェアハウス特別顧問の男性の哲学・政治思想が大いに影響していることは否めず、むしろ、元より当男性に類似の思想を持つ女性たちが集まった結社が女現研であるとも言えます。

但し、選挙時の投票行動などにおいて、組織的な行動をとることはありません。代表女性スタッフ以外の幹部女性スタッフや一般女性スタッフにおいては、なおのこと多種多様な思想が見られます。

- 私たちは、概ね反自民党、反公明党・創価学会（事実上の宗教政党、政教一致団体）、反共、半ば旧民主党・民進党寄りの立場をとっておりますが、天皇を事実上の国家元首とする立憲君主制、議院内閣制を維持すべきであると考えています。しかし、「元首」が社会契約説でなく国家有機体説に基づく「生物としての国家の首長」を意味する以上、憲法への「元首」の明記は不要であると考えています。
- 私たちは、元を辿れば旧社会民主連合の支持層の女性が多いですが、社公民路線（公明党を含む連合体）には当初から反対しており、現在も中道左派よりは中道右派の立場をとっているため、日本維新の会などの支持者も含まれています。
- 私たちは、天皇および日本の八百万の神々・自然・四季を精神的支柱とする日本文化・日本文明という伝統的国体と社会民主主義・修正主義との高次における調和点を追求する中で女性の「性」も観察され保護されるべきであると考えており、現行のフェミニズムのほとんどに対して批判的立場をとっています。
- 但し、国家内共同体のあり方としては、女現研のスタッフが居住するシェアハウス等で「社会民主主義的コーポラティズム」とも言える試みは実践しています。しかし、日本の公権力（国家、自衛隊、警察、検察、裁判所など）に挑戦する「暴力的な非国家主体（VNSA）」を目指しているわけではありません。実状としては、あくまでも「権利能力なき社団」、「任意団体」、「民法上の組合」に該当します。
- 私たちは、概ね憲法九条の改正には反対の立場をとっていますが、様々な立場の女性が含まれます。
- 従軍慰安婦問題、竹島問題、尖閣諸島問題などについては、現安倍政権の立場を支持しています。
- 私たちは、現在導入されている「女性専用車両」に反対し、以下のいずれかに是正すべきであると考えています。
 - 名称を「女性優先協力車両」、「女性思いやり車両」などに変更する。「専用」の語は虚偽であり、憲法その他の法令違反であるとする。

- 「女性専用車両」を廃止し、同車両に乗り込む男性を排除するガードマン役となっていた人員（駅員・アルバイト）を痴漢対策に回す。
- 「男性専用車両」を「女性専用車両」と同数またはそれよりも多く設置し、それぞれ異性は乗車禁止とし（「専用」の語義を正確に履行）、むしろ早朝に絶対数で圧倒的に多い男性通勤客が女性と接触できない環境を設ければよい。